

平成22年度 第2回 日本海スルメイカ長期漁況予報

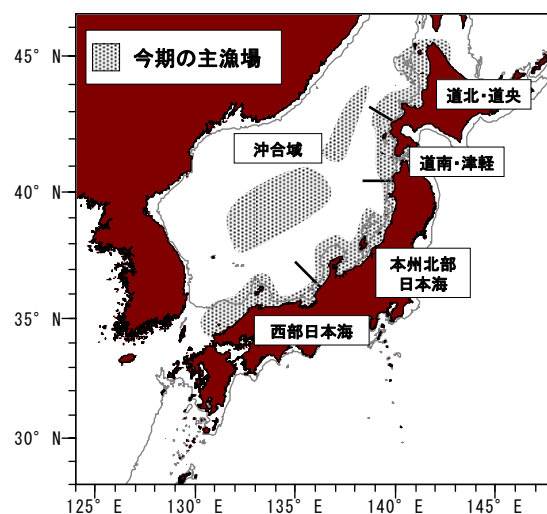
－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
日本海区水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(2010年8月～12月)のポイント

対象魚種：スルメイカ
対象海域：日本海
対象漁業：主にいか釣り漁業
対象魚群：主に秋季発生系群

- (1) 来遊量：昨年および近年平均を下回る。
- (2) 漁期・漁場：漁期前半は昨年並みであるが、
漁期後半は昨年を下回る。
- (3) 魚体の大きさ：近年平均並み。

* 近年は最近5年間(2005年～2009年)



問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

担当：沿岸資源班 香川、今井

電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

独立行政法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所 業務推進部

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/>

平成 22 年度 第 2 回 日本海スルメイカ長期漁況予報

今後の見通し（2010 年 8 月～12 月）

対象魚種：スルメイカ

対象海域：日本海（道北・道央、道南・津軽、本州北部日本海、西部日本海、沖合域）

対象漁業：主にいか釣り漁業

対象魚群：秋季発生系群、後半は冬季発生系群も含む

1. 道北・道央（小型いか釣り）

- (1) 来遊量・漁況：昨年および近年平均を下回る。
- (2) 漁期・漁場：概ね対象期間を通じて形成。
- (3) 魚体の大きさ：近年平均並み。

2. 道南・津軽（小型いか釣り）

- (1) 来遊量・漁況：昨年並みで近年平均を下回る。
ただし、11 月は昨年を下回る。
- (2) 漁期・漁場：11 月に活発な漁場形成はない。
- (3) 魚体の大きさ：近年平均並み。

3. 本州北部日本海（小型いか釣り）

- (1) 来遊量・漁況：昨年および近年平均並み。
- (2) 漁期・漁場：活発な漁場形成はない。
- (3) 魚体の大きさ：近年平均並み。

4. 西部日本海（小型いか釣り）

- (1) 来遊量・漁況：昨年並みで近年平均を下回る。
- (2) 漁期・漁場：11 月以降は昨年を下回る。
- (3) 魚体の大きさ：近年平均並み。

5. 沖合域（中型いか釣り）

- (1) 来遊量・漁況：昨年並みで近年平均を下回る。
- (2) 漁期・漁場：8 月の大和堆周辺海域では近年平均並み。
- (3) 魚体の大きさ：近年平均並み。

* 道北・道央（宗谷～後志）、道南・津軽（渡島、檜山、青森県）、本州北部日本海（秋田県～石川県）、西部日本海（福井県～長崎県）、沖合域（日本海中央部）。

** 近年平均は最近5年間（2005年～2009年）の平均を示す。



I 予報の説明

2010年6月までの漁況の経過、6月下旬～7月上旬に実施した日本海スルメイカ漁場一斉調査の結果、および冬季発生系群を主体とした太平洋での分布状況（平成22年度 第1回 太平洋スルメイカ長期漁況予報）を主要な情報として今期の各海域における漁況を以下の通りに予測した。

【1. 道北・道央（小型いか釣り）】

道北・道央海域では通常、7～8月と11月に漁獲量のピークがある。前半は秋季発生系群が主対象であり、後半は冬季発生系群が主な漁獲対象となる。

漁場一斉調査結果では、①今年の当海域への来遊量は道北を中心に昨年を下回った。また、②今年6月の漁獲量は昨年および近年平均を下回った。

今期の漁況は①と②により昨年および近年平均を下回ると予想される。魚体の大きさは近年平均並み。

【2. 道南・津軽（小型いか釣り）】

道南・津軽海域では例年7月が漁期のピークで、太平洋側からの来遊群によって11月にもう一つの小さなピークが出来る場合がある。近年、6～8月の漁獲量は減少傾向にある。

漁場一斉調査結果では、今年の当海域への来遊量は昨年同様少なかったが、魚体は昨年より大型が多かった。③今年6月の漁獲量は昨年同様であり、近年平均を下回った。また、④太平洋側の来遊群も昨年を下回ると予想されている。

今期の漁況は、③により昨年並みで近年平均を下回ると予想される。ただし、④により11月は活発な漁場形成はなく、昨年および近年平均を下回ると予想される。魚体の大きさは近年平均並み。

【3. 本州北部日本海（小型いか釣り）】

本州北部日本海では漁期の中心は5～7月であり、⑤近年は8月以降にこの海域での活発な漁場形成は見られていない。今年5～6月の漁獲量は昨年および近年平均を上回った。

漁場一斉調査結果では、能登半島付近を中心に分布が見られたが、⑤により今後は活発な漁場形成はなく、魚体の大きさは近年平均並み。

【4. 西部日本海（小型いか釣り）】

予報対象期間の西部日本海では、10月以降に主に沖合から南下する群が漁獲の主対象となる。今年5～6月の漁獲量は昨年および近年平均を下回った。今年の漁場一斉調査結果では、⑥大和堆付近での来遊量は昨年とほぼ同様であったが、昨年よりも大型の個体が多かった。一方、⑦道北では来遊量が減少し、太平洋側からの来遊群も昨年を下回ると予想されている。

今期の漁況は、⑥により近年平均を下回り、昨年並みと予想される。ただし、⑦により道北および太平洋側から魚群が南下する11月以降は昨年を下回ると予想される。魚体の大きさは近年平均並み。

【5. 沖合域（中型いか釣り）】

沖合域では大和堆付近が主漁場であり、8月下旬～9月以降には北海道沖および太平洋側からの来遊群によって武蔵堆付近も漁場となる。今年の漁場一斉調査結果では、⑧大和堆付近での来遊量は昨年とほぼ同様であったが、昨年よりも大型の個体が多かった。一方、⑨道北では来遊量が昨年よりも減少し、太平洋側からの来遊群も昨年を下回ると予想されている。

今期の漁況は、⑧により8月に大和堆付近に近年平均並みの漁況が予想されるものの、9月以降は⑨により昨年および近年平均を下回ると予想される。全体としては昨年並みで近年平均を下回る。

II 予報に用いた主要な情報および調査結果

1. 漁場一斉調査結果

1) 分布状況

日本海におけるスルメイカ（秋季発生系群）の分布状況を日本海漁場一斉調査（6月下旬～7月上旬に実施）によって調べた。調査結果の概要は下記の通りであった（図1）。

- (1) 道北～道央海域では、CPUE（釣機1台1時間あたりの採集尾数）が30尾以上の分布密度が比較的高い調査点が複数あったものの、昨年のように非常に分布密度の高い調査点はなかった。魚体の大きさは、沿岸域では16cm台以下、および17cm～18cm台の小型個体の比率が高かったが、沖合域では19cm台以上の比率が高かった。
- (2) 道南・津軽海域では、CPUEが20尾前後の調査点もあったが、5尾以下の調査点が多く、分布密度が低かった。道南では21cm以上の個体の比率が高い調査点もあった。
- (3) 本州北部では、能登半島付近を中心にCPUEが30尾前後の比較的高い分布密度が高い調査点があった。魚体の大きさは、外套背長19cm～20cm台の個体の比率が高く、昨年よりも大型の比率が高かった。
- (4) 西部日本海では、隠岐諸島付近でCPUEが30尾以上の分布密度が比較的高い調査点もあったが、昨年同様、外套背長16cm台以下の小型個体が中心であった。
- (5) 沖合域では、大和堆を中心にCPUEが30尾前後の分布密度が比較的高い調査点が多かった。沖合域では、沿岸域に比べて外套背長21cm以上の個体の比率が高く、外套背長23cm以上の個体は昨年よりも多かった。

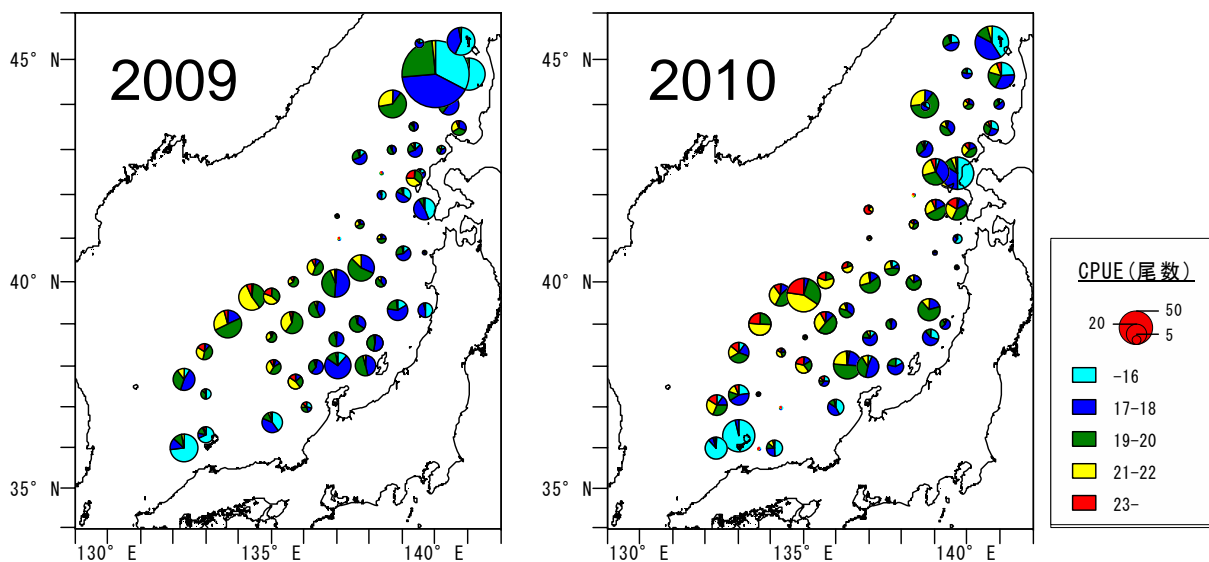


図1 日本海におけるスルメイカの分布状況 図中●の面積は各調査点の分布密度の指標となるCPUE（釣機1台1時間の採集尾数）を示し、各色は各外套背長範囲(cm)の比率を示す。

2) 資源水準

日本海漁場一斉調査において、釣獲試験を行った全調査点の平均 CPUE（釣機 1 台 1 時間あたりの採集尾数）を日本海におけるスルメイカ（秋季発生系群）の資源量指数とした。資源量指数は、1970 年代と 1980 年代は減少傾向にあり、概ね中位～低位水準であったが、1990 年代は増加傾向となり、中位～高位水準になった（図 2）。2002 年（25.04 尾）に資源量指数は最も高くなったが、2003 年～2007 年（概ね 10～15 尾）にやや低下した。2010 年の資源量指数は 14.59 尾であり、昨年（18.24 尾）の 80%、近年平均（16.50 尾）の 88%に減少した。

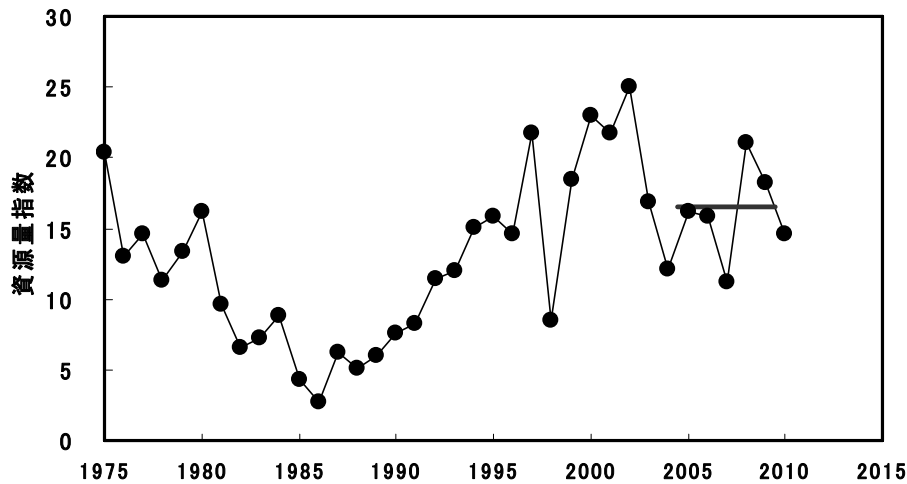


図 2 スルメイカの資源量の指数の変化 太線は近年平均（16.50 尾）を示す。

3) 魚体の大きさ

資源量指数で重み付けした外套背長組成を図 3 に示す。2010 年は 20cm 台にモードがあり、概ね近年平均並みの外套背長組成であった。外套背長 20cm 台以下のスルメイカの資源量指数は、昨年および近年平均を下回ったが、外套背長 21cm 以上のスルメイカの資源量指数は昨年を上回った。

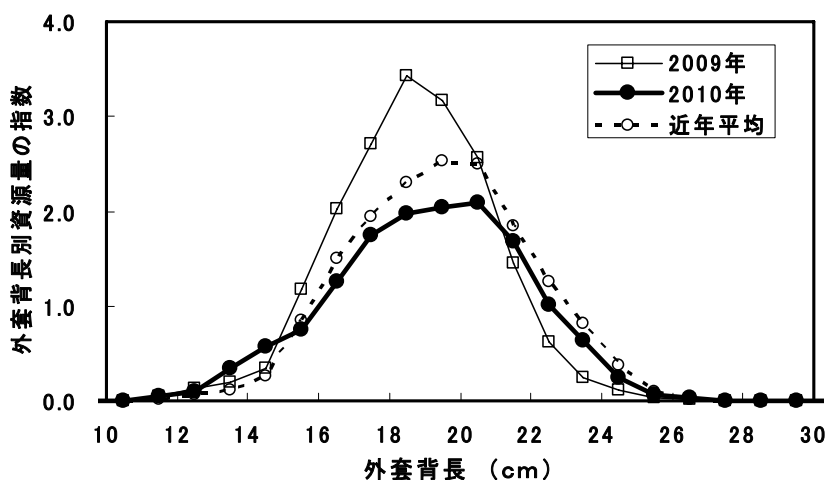


図 3 日本海漁場一斉調査結果による CPUE 重み付け平均体長組成
各外套背長階級の値は釣機 1 台 1 時間あたりの平均採集尾数を示す。

2. 2010年6月までの漁況の経過

2010年6月までの各海域の月別漁獲量を図4に示す。今年6月の本州北部（石川県～秋田県）の漁獲量は、石川県および新潟県を中心に漁獲量が多く、昨年および近年平均を上回った。一方、道北・道央では昨年および近年平均を下回った。道南・津軽および西部日本海ではほぼ昨年並みであるが、近年平均を下回った。日本海沖合では量は少ないものの、6月の漁獲量は近年平均並みであった。

2010年6月の特徴として、主漁場である石川県および新潟県では好調であったが、その他の海域では低調であった。

3. 太平洋側（冬季発生系群）の分布状況

太平洋側には主にスルメイカ冬季発生系群が分布する。これらは10月以降、宗谷海峡および津軽海峡を經由して日本海に來遊する。そのため、太平洋側の冬季発生系群の分布状況は10月以降の日本海の漁況に深く関係する。

平成22年度 第1回 太平洋スルメイカ長期漁況予報によると、太平洋側では、多くの海域で來遊量が昨年を下回ると予想されている。したがって、10月以降の漁況は昨年を下回る可能性が高い。

太平洋側では9月にもスルメイカ漁況予報が行われるため、10月以降の漁況予測は、その時点での情報によって変化する可能性がある。太平洋側の漁況予報の詳細については下記を参照。

<http://abchan.job.affrc.go.jp/index.html>

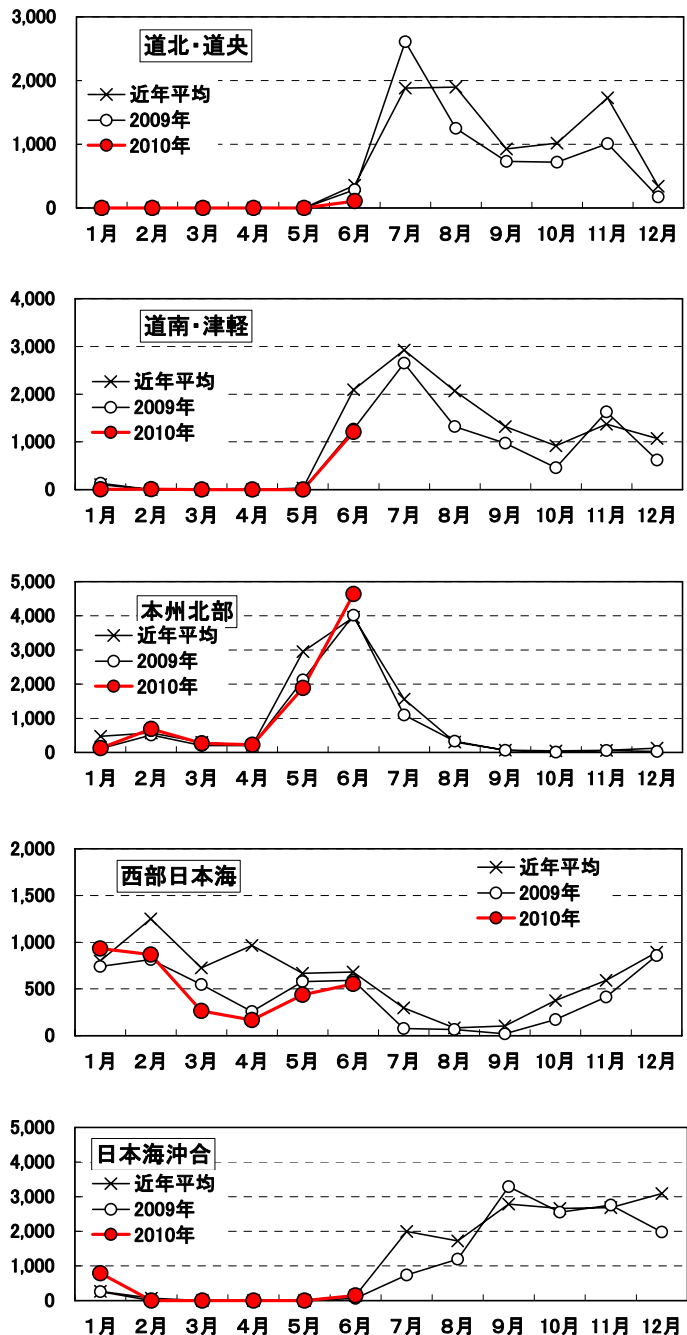


図4 日本海各海域のスルメイカの漁獲量（トン）
各道府県試験研究機関資料より作成（一部未集計）

日本海沖合は冷凍スルメイカ漁獲量、
その他の海域は生鮮スルメイカ漁獲量

太平洋側の漁況予報の詳細については下記を参照。

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 中央水産試験場	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	鳥取県水産試験場
秋田県農林水産技術センター 水産振興センター	島根県水産技術センター
山形県水産試験場	山口県水産研究センター
新潟県水産海洋研究所	長崎県総合水産試験場
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	社団法人 漁業情報サービスセンター
石川県水産総合センター	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
福井県水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター 北海道区水産研究所 東北区水産研究所 日本海区水産研究所
京都府農林水産技術センター 海洋センター	